

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
次世代海洋資源調査技術推進委員会(第9回)
議事要旨

1. 日 時：平成28年6月24日（金）15：30-17：00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 共用623特別会議室

3. 出席者：(敬称略)

(総合科学技術・イノベーション会議)

	久間 和生	常勤議員、SIP ガバニングボード議長
(議長)	浦辺 徹郎	プログラムディレクター(PD)
(PD 代行)	石井 正一	石油資源開発(株) 代表取締役副社長執行役員
(SubPD)	浦 環	九州工業大学社会ロボット具現化センター センター長 特別教授
	辻本 崇史	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事
	堀田 平	国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事
(関係省庁)	堀田 繼匡	内閣官房総合海洋政策本部事務局 内閣参事官
	新田 隆夫	総務省情報通信国際戦略局 宇宙通信政策課 課長
	林 孝浩	文部科学省研究開発局海洋地球課 課長
	辻本 圭助	経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部鉱物資源課 課長
	川村 竜児	国土交通省海事局海洋・環境政策課技術企画室 室長
	佐々木 宏	国土交通省港湾局海洋・環境課 課長
	太田 志津子	環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室 室長
(実施機関)	池原 研	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター研究戦略部 研究企画室 首席研究員
	片山 昭	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 特別研究主幹
	門脇 直人	国立研究開発法人情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク総合研究センター センター長
	河地 正伸	国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生物資源保存研究推進室 室長
	木川 栄一	国立研究開発法人海洋研究開発機構 次世代海洋資源調査技術研究開発 PT プロジェクト長
	田中 武男	国立研究開発法人海洋研究開発機構次世代海洋資源調査技術研究開発 PT プロジェクト長代理
	田村 兼吉	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 研究統括主幹

(オブザーバー)

内閣官房総合海洋政策本部事務局、総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省・海事局、国土交通省・港湾局、環境省、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人海上・港

湾・航空技術研究所海上技術安全研究所、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、(一社)海洋調査協会、次世代海洋資源調査技術研究組合

4. 議事【非公開】

- (1) マネージメント体制の強化について
- (2) GB 評価を受けた指摘事項への対応と今後の計画について
- (3) 環境影響評価に関する国際標準化タスクフォース報告
- (4) その他

5. 配付資料

- 資料 1-1 マネージメント強化に向けた取り組み【非公開】
- 資料 1-2 SIP「次世代海洋資源調査技術」体制図【非公開】
- 資料 2-1 GB 評価を受けた指摘事項への対応と今後の計画について【非公開】
- 資料 2-2 SIP 次世代海洋資源調査技術研究開発計画(案)【非公開】
- 資料 3-1 環境影響評価に関する国際標準化タスクフォース報告【非公開】
- 参考資料 1 SIP 次世代海洋資源調査技術 推進委員会 構成員名簿
- 参考資料 2 SIP 次世代海洋資源調査技術 推進委員会(第8回)議事要旨
- 参考資料 3 産業課方策助言会議について【非公開】

6. 議事要旨

議事に先立ち、浦辺 PD から挨拶があった。

- ・体制を大きく変更し、出口につながり、進捗をより確実に管理できるよう、マネジメント体制を強化した。

続いて、久間議員から挨拶があった。

- ・SIP は 3 年目に入り、中間評価の段階になった。再度、全ての研究項目のフォローアップをしてもらう必要がある。さらに、終了後の実用化計画を具体化する年でもある。
- ・SIP は府省連携、産学官連携、国際標準化、技術等の実用化も行う、一気通貫のプログラムであることを再度認識してもらいたい。
- ・平成 27 年度のガバニングボードにおける評価は、ビジネスモデルに基づく事業化・実用化への取り組みが不十分というものであった。SIP 終了時に向けて産業界からの意見等も踏まえつつ目標を再設定し、本課題からよい成果が出るよう、浦辺 PD の強いリーダーシップのもと研究開発を進めてほしい。
- ・6 月 30 日にガバニングボードで平成 27 年度評価への対応等について報告を受ける予定である。

新たに PD 代行として着任した石井 PD 代行から挨拶があった。

(1)マネジメント体制の強化について【非公開】

資料1-1および資料1-2に基づき、事務局から説明があった。

(2)GB 評価を受けた指摘事項への対応と今後の計画について【非公開】

資料2-1および資料2-2に基づき、事務局から説明があった。

(3)環境影響評価に関する国際標準化タスクフォース報告【非公開】

資料3-1に基づき海洋研究開発機構 福島オブザーバーから報告があった。

(4)その他【非公開】

平成 28 年度の年間スケジュール概要について、事務局から説明があった。

最後に、浦辺 PD の挨拶により、閉会した。

以上